



1. 幅広いアプローチ活動の進捗状況

10月10、11日に国際核融合材料照射施設の工学設計・工学実証活動(IFMIF/EVEDA)の事業委員会が六ヶ所村で、同月15、16日に国際核融合エネルギー研究センター(IFERC)の事業委員会が東京でそれぞれ開催された(写真参照)。各事業委員会では、それぞれの事業の事業計画、2008年の年次計画等が検討され、運営委員会への勧告が取り纏められた。これらの結果を受けて、11月15日にバルセロナで第2回の運営委員会が開催された。特にIFERCの核融合計算シミュレーションセンターにおいて導入するスーパーコンピュータの選定や適切なベンチマークコードの選定についての特別ワーキンググループを設けること、などが合意された。

これらの活動のための準備、すなわち、原型炉のための

研究開発関連の緊急タスク、建屋建設等の調達に関する取り決めについても日欧で協議が進められている。

2. 六ヶ所BAサイトの準備状況

実施機関としての建屋およびサイト整備の実施設計は大詰めを迎えており、建築、消防、環境・衛生関係の官庁等との調整を行い、建屋の詳細設計の最終段階を迎えている。

地元理解促進活動の一環として原子力機構が直接、地元住民へBAについて説明する説明会を10月中旬から開始しており、これまで4回の説明会に延べ約150名の参加者があった。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図1 IFMIF/EVEDA 事業委員会メンバー(平成19年10月10日、六ヶ所サイトにて)



図2 IFERC 事業委員会(平成19年10月15日、東京にて)

(参考) 第2回 BA 運営委員会のプレスリリース

http://fusionforenergy.europa.eu/documents/press_release_20071115_english.pdf